

大切な資源を次代へ 津山で森林づくり植樹祭

「市民参加の新たな森林づくり春・植樹祭」(市・県主催)は5月23日、津山町柳津字黄牛深畑地内で開かれ、横山小学校みどりの少年団や一般の参加者など約80人が参加し、コナラの苗木800本を植樹しました。

市では、大切な資源を次世代へ残すため植樹祭を通して楽しみながらできる森林づくり事業を行っています。入学などの記念を標柱にする「私の記念植樹」に参加した齊藤旭飛くん(6)＝津山町横山6区＝は「土が固いところは掘るのが大変だったけど、苗木に土をかける作業が楽しかったです。植えた全部の木が大きくなってほしいです」と苗木の成長を願いました。



参加者はくわで穴を掘り、緑豊かな森林に育つよう願いを込めながら一本一本丁寧に植樹しました。

地域に根差す企業に 旭洋工業製作所が竣工式

「旭洋工業製作所登米工場建設工事竣工式」は5月13日、長沼第二工業団地の同工場で行われ、関係者や施工業者ら約20人が出席しました。

同社は静岡県長泉町に本社を置き、自動車部品の製造やプレス金型などの設計・製作をする企業。式典で佐野昌司代表取締役社長は「震災からの復興に向け、地元の皆さまには計り知れない苦労があったと思います。竣工式を迎えた当社はこれからが本当のスタート。地元の皆さまやお客さまにとってかけがえのない企業となるように、一步一步努力を積み重ねていきたい」と決意を新たにしていました。



完成した登米工場で、宮司からおはらいを受ける参列者。積み重ねてきた技術と思いを胸に新たな成長を願いました。

個性豊かな作品並ぶ 高校生絵画展IN登米市2021



左:展示された作品を眺める佐沼高の生徒たち。会場にはさまざまな年代の人たちが訪れ、高校生の作品を鑑賞しました。中:今回の絵画展で登米大賞、優秀賞に選ばれた作品。真ん中が登米大賞に選ばれた佐々木さんの作品「寂寥」。右:熊谷市長から賞状を受け取る佐々木さん。

「高校生絵画展IN登米市2021」は5月27日から30日まで、登米祝祭劇場で開かれ、市内外の15校から出品された個性あふれる77点の作品が来場者を楽しませました。

同絵画展は、旧豊里町が「98北上川水系高校生とよさと絵画展」として開始。県内など近郊に通う高校生を対象に、美術作品を発表する場と広く美術を鑑賞する機会を提供して地域文化を振興することと、絵画を通じた生徒同士の交流を目的に毎年開催しています。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが、今年度は感染症対策を施し、23回目の開催を迎えました。これまでの出品総数

は1990点に上ります。

5月30日に開かれた表彰式では、最高賞である登米大賞に選ばれた佐々木柊斗さん＝東北生活文化大学高2年＝、優秀賞に選ばれた山内慈子さん＝佐沼高3年＝など、8人の受賞者とその保護者らが出席。熊谷盛廣市長、佐藤信男登米文化振興財団理事長などから賞状が手渡されました。佐々木さんは「自画像の中で、悲しみを上手く表現できました。こういった展示会を開催し、表彰していただくことは自分にとってとても自信になるし支えにもなります。次回もぜひ出展したいです」と笑顔で受賞の喜びを話しました。

中学生の友好深まる 2年ぶりに野球大会開催

「第60回北上水系少年野球大会」(津山町野球協会主管)が5月15、16の両日、津山河川運動場で開かれ、市内の中学生ら約160人が参加しました。

同大会は北上川流域の市町中学生の友好を深めながら野球技術の向上と青少年の健全育成が目的。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内チームのみで開催しました。決勝戦を前に高橋咲汰さん(14)＝迫町西館＝は「久しぶりの大会で決勝までこれたので、このままの勢いで優勝して、両親や顧問の先生に野球で恩返しをしたい」と意気込んだとおり、所属する佐沼中が優勝に輝きました。



球場には、2年ぶりに選手たちの気合の入った声や応援席からの声援が響き渡りました。

コロナのまん延防ぐ 高齢者への集団接種開始

「高齢者への新型コロナウイルスワクチン接種」が5月22日から、公民館・体育館など18カ所の集団接種会場が始まりました。

市では対象者約2万7千人へ接種会場や日時を記載したはがきを送付。はがきの通知によって接種予約としています。ワクチンは2回の接種が必要で、接種費用は無料です。1回目の接種を受けた佐々木三郎さん(90)＝豊里町竹花＝は「報道で先行している自治体の様子を見て予約に不安がありましたが、登米市は電話での予約は不要だったので心配無く会場に来ることができました」と安心した表情を見せていました。



通知された日程で接種できない場合や個別接種などを希望する場合はコールセンターに連絡して変更することができます。